



2016年度科目紹介

「マインドフルネス」の手法を取り入れながら社会課題の解決手法を学ぶ 「ソーシャルイノベーションとマインドフルネス」

株式会社ビジネス・ブレイクスルー(所在地:東京都千代田区、代表取締役:大前研一、以下BBT)が運営する「ビジネス・ブレイクスルー大学(学長:大前研一、以下BBT大学)」は、2015年度秋学期より、「ソーシャルイノベーションとマインドフルネス」を開講しております。本科目では、個々人の内発的動機が社会変革をもたらすアイデアやビジネスの原動力となるという考えに基づき、集中力や自己効力感を高める手法として今注目を集めている「マインドフルネス」の考え方を取り入れながら優れたソーシャルイノベーション事例への理解を深め、新しい社会の創出に貢献できる視点の獲得を目指します。

2015年度秋期より開講している「ソーシャルイノベーションとマインドフルネス」は、多くのビジネスパーソンが注目している、正解のない不確実な現代の社会を切り拓いていくために必要なソーシャルイノベーション・社会変革を担える人材となるための土台づくりを目的としています。社会を劇的に変革させるイノベーションの発想は必ずしも外的環境から論理的に導き出されたわけではありません。実際、多くのイノベーションが、変革者の生い立ちや経験を背景としたストーリーや直観、感性に基づいた右脳的な内発的動機から生み出されています。

本科目では、優れた社会変革事例に触れることで変革者の意思や行動力、発想などを体感することを通して、新しい社会を創出するための視点を獲得することを目指します。さらに、自身の内面と向き合い、集中力や自己効力感を高め維持する手法として各方面で注目を集める「マインドフルネス」の手法を学び、自己と社会の関係を構築し維持していくための「マインドフルネス」の活用法についても考えます。第一線で活躍しているソーシャルイノベーター等のゲスト8名をお迎えし、最先端事例について実感のこもった話を本人の口から聞くことができるのも本科目の特徴の一つです。

【ソーシャルイノベーションとは】

社会的革新、社会変革。社会的課題の解決だけでなく、その制度や仕組み、商品やサービスを作り上げることによって社会全体がより良い方向に向かわせていく大きなイノベーションのことを指す。

【マインドフルネスとは】

ある特定の方法で自分の体験に対して注意を向けること。今自分が感じていること、自分の体が素直に反応していることに意識を集中することによって、意志決定の際の土台をはっきりさせる効果があるとされている。

BBT大学経営学部は、文部科学省の認可を受けて2010年に誕生した100%オンラインで経営学の学士を取得できる大学です。開学以来、答えのない問いに対してひるむことなく対峙し道を切り拓く力を持ったビジネスパーソンを育成すべく、様々な教育コンテンツを継続的に提供しています。BBT独自開発のオンライン教育プラットフォーム AirCampus®を利用して行われるBBT大学のオンライン教育システムでは、講義の受講だけでなく、試験やレポート提出、クラスでのディスカッションなど全ての学習活動をオンラインで完結させられるため、日本各地、世界各地で活躍する学生も多数存在します。

世界のどこにいても自分自身の軸を大切にしながら積極的に社会と関わり変革に貢献できる人材の育成を目指し、本科目をはじめとする自己と社会の関係性を考える科目も積極的に取り入れています。

【科目概要】

- ・科目名 「ソーシャルイノベーションとマインドフルネス」(2年次科目/2単位)
- ・担当教員: 須藤順氏(BBT 大学経営学部非常勤講師) / 須子善彦氏(BBT 大学経営学部准教授)
- ・ゲストイノベーター: 信岡良亮氏(株式会社アスノト 代表取締役, 株式会社巡の環取締役, 海士町 島の大使) / 矢島里佳氏(株式会社和える代表取締役) / 原亮氏(株式会社 CCL 取締役) / 秋本可愛氏(株式会社 Join for Kaigo 代表取締役) / 丑田俊輔氏(ハバタク株式会社代表取締役) / 小笠原舞氏・小竹めぐみ氏(こどもみらい探求社共同代表) / 小澤いぶき氏(児童精神科医) / 井上英之氏(慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科 特別招聘准教授)

【講師紹介】

須藤 順氏(BBT 大学経営学部 IT ソリューション学科 非常勤講師)



高知大学地域協働学部講師、株式会社 CCL 取締役。博士(経営経済学)、社会福祉士。医療ソーシャルワーカーに従事後、医療関連施設の立ち上げと経営に参画。その後、中間支援機関においてコミュニティ/ソーシャルビジネスのコンサルティング、まちづくり/コミュニティデザイン支援、農商工連携/6次産業化等の支援を担当。2012年5月、株式会社 CCL 立ち上げに参画、2014年10月より現職。専門は、社会的企業論/社会起業家論、コミュニティデザイン論、ソーシャルビジネス論。独立行政法人中小企業基盤整備機構 人材支援アドバイザー、BusiNest 高成長ベンチャー・スタートアップ支援 メンター等。

須子 善彦氏(BBT 大学経営学部 IT ソリューション学科 准教授)



函館市出身。東京在住。慶應義塾大学 SFC 政策・メディア研究科 博士(政策・メディア)。専門はソーシャルサーチ、ソーシャルメディア、SNS、地域情報化・地域活性化、マイプロジェクト。IPA 未踏ソフトウェア創造事業にて「天才プログラマー・スーパークリエイター」認定。著書『地域 SNS 最前線 Web2.0 時代のまちおこし実践ガイド』(共著)。大学教員、社会起業スタッフを経て現在は教育ベンチャーBADO 株式会社を創業、代表取締役 CEO。

【BBT 大学について】

2005年4月に文部科学大臣より認可を取得し経営の専門職大学院として開学。2010年には経営学部が新設され、「ビジネス・ブレイクスルー大学院大学」から「ビジネス・ブレイクスルー大学」に改名。新設された経営学部は、日本初の100%オンラインで経営学学士を取得できる大学となった。大前研一が学長を務める本大学では、“teach(教える)”ではなく学生が主体的に“learn(学ぶ)”するのを手助けすることに大学の役割があると考えている。この考えに基づき、設計されたカリキュラムでグローバル時代を生き抜く力の育成を目指している。2014年3月に1期生が卒業。2014年10月にはe-Learning 大賞 厚生労働大臣賞を受賞。 <http://bbt.ac/>

【BBT について】

グローバル環境で活躍できる人材の育成をミッションとして 1998年に世界的経営コンサルタント大前研一により設立された教育会社。設立当初から革新的な遠隔教育システムによる双方向性を確保した質の高い教育の提供を目指し、多様な配信メディアを通じてマネジメント教育プログラムを提供。大学、大学院、起業家養成、ビジネス英語や経営者勉強会等多様な教育プログラムを運営するほか、法人研修の提供やTV番組の制作など様々な顔を持つ。2013年10月のアオバジャパン・インターナショナルスクールへの経営参加を契機に、生涯教育をサポートするプラットフォーム構築をグループ戦略の柱の1つとして明確に位置づけている。2016年度はアタッカーズ・ビジネススクール20周年、資産形成力養成講座10周年の節目であり、BBT 大学大学院アントレプレナーコースの初年度となる。在籍会員数約1万人、延べユーザID数は約20万。 <http://www.bbt757.com/>

【本件に関するお問い合わせ先】

株式会社ビジネス・ブレイクスルー PR 担当 袴田

TEL : 03-6271-0757 FAX : 03-3265-1381 Mob : 050-3396-2129

参考資料

イノベーション等の概念や取り巻く状況などへの理解を深める講義に加え、第一線でソーシャルイノベーションにチャレンジされている方々をゲストとしてお招きし、背景やエピソードを交えて講義をいただくのも本科目の特徴の一つです。これらは単なる事例紹介ではなく、取り組みに至った背景や変化、取り組みが周囲に与えた影響などのストーリーを通じて、イノベーターの思考や行動を読み取ることで、ソーシャルイノベーターとしての視点を獲得することを目指します。

◎ゲスト一覧(ご登場順)

ゲスト	プロフィール
信岡良亮氏 (株式会社アスノオト 代表取締役, 株式会社巡の環取締役, 海士町 島の大使)	1982 年大阪府生まれ。2005 年同志社大学商学部卒業。東京での IT ベンチャー企業勤務を経て、島根県隠岐諸島の海士町に移住し、2008 年に株式会社巡の環(めぐりのわ)を共同で起業。6 年半の海士町での生活を経て、都市と農村の新たな関係を築くため、2014 年 5 月より東京に活動
矢島里佳氏 (株式会社和える代表取締役)	1988 年 7 月 24 日 東京都生まれ。職人の技術と伝統の魅力に惹かれ、19 歳の頃から日本の伝統文化・産業の情報発信の仕事始める。「21 世紀の子どもたちに、日本の伝統をつなげたい」という想いから、大学 4 年時である 2011 年 3 月、株式会社和えるを設立。2012 年 3 月、幼少期から職人の手仕事に触れられる環境を創出すべく、子どもたちのための日用品を、日本全国の職人と共につくる“0 から 6 歳の伝統ブランド aeru”を立ち上げる。
原亮氏 (株式会社 CCL 取締役)	1974 年生まれ。東京都品川区出身。法政大学法学部政治学科卒。編集者・ライター、モバイル業界を経て地元行政、企業と「みやぎモバイルビジネス研究会」立ち上げ。2011 年「Fandroid EAST JAPAN」設立。2012 年、株式会社 CCL 設立。2014 年「Global Lab SENDAI」代表幹事。オープンデータ、シビックテックの領域では、IT スキルをもった市民層の登場を、市民参画、官民共創の新たな局面として注目し、全国各地でローカルにこだわった場づくりに携わる。
秋本可愛氏 (株式会社 Join for Kaigo 代表)	1990 年生まれ。山口県出身。大学 2 年生の春に起業サークル For Success でプロジェクトチーム sep-arrange を結成。認知症予防につながるフリーペーパー「孫心(まごころ)」を発行し、全国の学生フリーペーパーコンテスト Student Freepaper Forum 2011 にて準グランプリを受賞。2013 年 4 月、株式会社 Join for Kaigo を設立し、超高齢社会を創造的に生きる次世代リーダーのコミュニティ「HEISEI KAIGO LEADERS」を運営。
丑田俊輔氏 (ハバタク株式会社代表取締役)	大学卒業後、IBM ビジネスコンサルティングサービス株式会社にて、コンサルタントとしてグローバル戦略を担当。アジアや米国とチームで仕事をし、各国を旅する中で、世界や日本の色々な課題を実感。2010 年にハバタク株式会社を創業。各国の教育機関・企業と連携し、海外渡航型の教育プログラムや、ICT を活用した英語学習プログラム「ネイティブ脳」を展開している。2014 年 4 月、秋田県五城目町に移住。町内の小学校廃校を拠点に、地域資源を活用したビジネス開発や、教育プログラム開発を進めている。2015 年、五城目町の茅葺古民家を発端にネットワーク型の村をつくる「シェアビレッジ・プロジェクト」を開始。
小笠原舞氏 (こどもみらい探求社)	埼玉県立浦和第一女子高校卒業 法政大学現代福祉学部現代福祉学科 幼少期に、ハンデを持った友人と出会ったことから、福祉の道へ進む。大学生の頃ボランティアでこどもたちと出会い、【大人を変えられる力をこどもこそが持っている】と感じ、こどもの存在そのものに魅了される。20 歳で独学にて保育士国家資格を取得し、社会人経験を経て保育現場へ。「こどもみらいプロデューサー」という仕事をつくり、2012 年にはこどもの自由な表現の場として“大人も子どもも平等な場”として子育て支援コミュニティ「asobi 基地」を立ち上げる。
小竹めぐみ氏 (こどもみらい探求社)	聖徳大学短期大学部専攻科 保育専攻卒業(学位取得)。保育士資格 幼稚園教諭第 2 種・第 1 種免許状取得、保育士をする傍ら、家族の多様性を学ぶため世界の家々を巡る女 1 人旅を重ねる。特に砂漠とアマゾン川の暮らしに活動のヒントを得て、2006 年より、講演会等を通して【違いこそがギフトである】と発信を始める。園に属さず自由に動くフリーランス保育士の肩書で独立。NPO 法人オトナノセナカ代表。4 年間の活動を通して保護者・教育関係者・社会人など 3000 人を越える人が参加し、対話を通して【気持ち】を提供し続けている。
小澤いぶき氏 (児童精神科医)	株式会社ディーアイシー(登記準備中)Co-Founder / 児童精神科医 asobi 基地および Pe' Canvas コアメンバー 東京都立梅が丘病院、東京都立小児総合医療センター 児童思春期精神科で児童精神科医として臨床に携わる。こどもと大人が平等な子育て環境を目指すコミュニティ活動 asobi 基地、そしてアートを通した教育プログラム Pe' Canvas の設立・運営の主要メンバーのひとり。現在立ち上げ中の DIC では、一人一人の多様性が受け入れられ、どんなこどもも安心できる育ちの場、環境づくりのために情熱を傾けている。
井上英之氏 (慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科 特別招聘准教授)	ジョージワシントン大学大学院にてパブリックマネジメント専攻しワシントン DC 市政府、アンダーセン・コンサルティングを経て、NPO 法人 ETIC に参画。2001 年より日本初のソーシャルベンチャー向けビジョンを開催するなど、国内の社会起業家育成・輩出に取り組む。2005 年、北米を中心に展開する社会起業向け投資機関 SVP 東京版を設立。2009 年、世界経済フォーラム「Young Global Leader」に選出。2010 年鳩山政権時、内閣府「新しい公共」円卓会議委員。現在、慶應義塾大学大学院 政策・メディア研究科特別招聘准教授。